



RIKKYO SECOND STAGE

Contents

- P1 「学び直す」ために「unlearn」という「チャレンジ」
- P2 本科生の素顔
- P3 専攻科生の素顔・話題の受講生
- P4～5 本科ゼミナール紹介
- P6 専攻科ゼミナール紹介
- P7 イベント紹介
- P8 学びの魅力
- P9 委員会活動の紹介・同窓生の多彩な活動
- P10～11 キャンパスライフ
- P12 箱根駅伝・修了生の声

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。



発行：立教セカンドステージ大学
編集責任：浜崎 桂子 編集：ニューズレター29号委員会
発行日：2023年3月6日
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1



「学び直す」ために「unlearn」という「チャレンジ」 立教セカンドステージ大学副学長 浜崎 桂子 (立教大学副総長)



セカンドステージ大学では、日々、「学び直し」、「再チャレンジ」、「異世代共学」というモットーが実践されている様子を目の当たりにします。

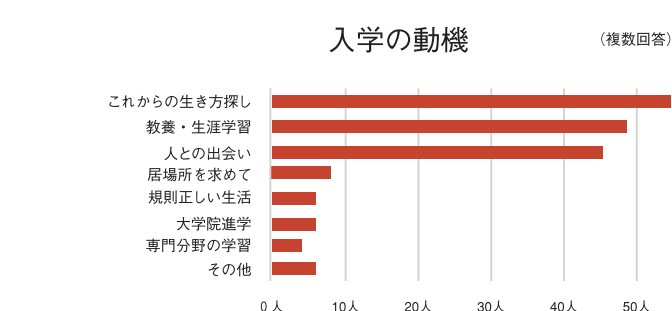
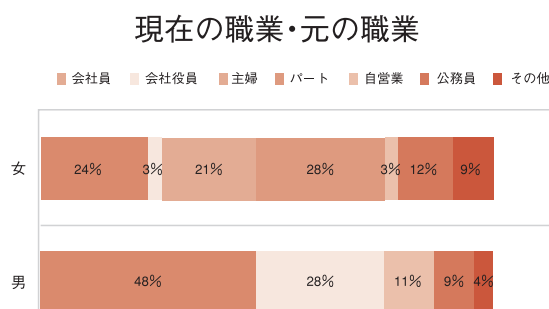
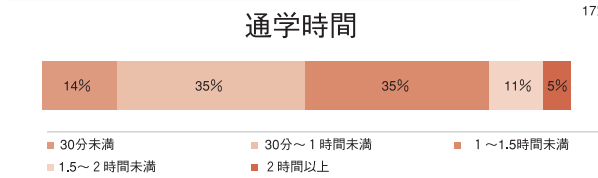
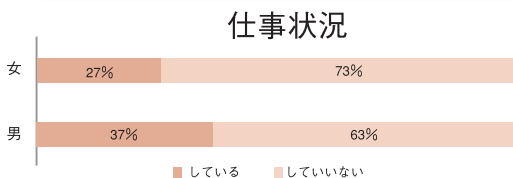
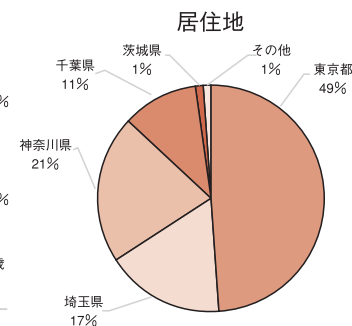
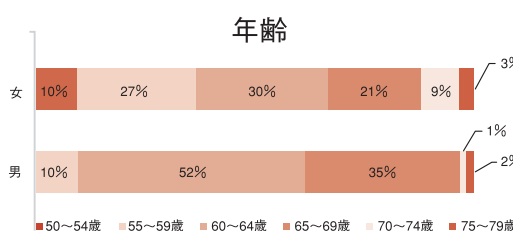
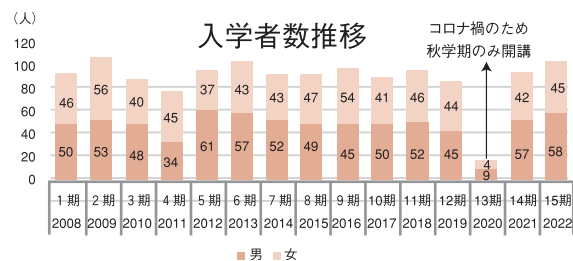
「学び直し」の意義を考えると私が思い浮かべるのは、英語の「unlearn」という動詞で

す。この語は、「学んだことを忘れる」、「既習の知識や習慣を捨てる」という意味ですが、「学び直し」と重なる点が含まれているといえます。これまで身に付けてきた社会的通念や価値観を相対化し、別の価値観を学ぶためには、一度、これまで「普通」だと思っていたことをunlearnする必要があります。もちろん、新しい価値観が良いとは限りませんが、これまでの価値観を相対化する視線が「学び直し」には必要です。足元の地域の課題も、また個人の生きやすさも、グローバルな社会状況と複雑に絡み合い、新しい解決策が求められる時代、人生経験を重ねつつ、柔軟な精神と自由な思考をもって思考をアップデートしていくこと、つまりunlearnしながら「学び直し」していくことが重要だといえるでしょう。これは、

口で言うほど簡単なことではなく、本来の意味で「チャレンジ」、つまり、難題であり、やりがいのある挑戦だといえるでしょう。

セカンドステージ大学の「異世代共学」実践の一つに、異文化コミュニケーション学部「基礎演習」に、受講生がコメンテーターとして参加する場があります。学部1年生が、グループで調査した内容を発表しますが、セカンドステージ大学受講生をゲストに迎えて、学生はいつも以上の力を発揮します。また、授業後のフィードバックからは、コメントを次に生かそうという姿勢が見て取れます。なぜ、学部教員の助言はこのように真剣に受け止めてくれないのだろう、と少しくやしい思いを持つほどです。一方、セカンドステージ大学の受講生も、学部から期待されていることを理解したうえで準備をし、決して自分の知識や経験を若い学生に押し付けないようunlearnしながら、学生の問題意識、未熟ながらも真剣に取り組む姿勢を受け止めています。このような「異世代共学」は、世代も関心も違う他者から学び合う場であり、双方にとってチャレンジングな学び合いの場だといえるでしょう。セカンドステージ大学の一つの柱としての「異世代共学」の場を、今後も幅広く展開していくことができると思います。

本科生の素顔（入学者数103人） 11月アンケート実施（80名回答）



受講後の感想

- ・対面授業、オンライン授業とも先生の説明がわかりやすく、楽しい授業がほとんどであった。
- ・興味ある科目が受講できた。レポート提出は振り返りができて良かった。
- ・まだまだ知らないことが多いことに気付いた。若い頃とは違う学び方が出来ているように思う。
- ・どの講義も人生において役立つものと思った。
- ・久しぶりの講義で90分間受けられるか不安だったが、講義が楽しくあっという間でした。
- ・これまできちんと備えてこなかったことを基礎から学べたので、今後さらに深めていきたい。
- ・予想していたよりハードな学生生活ですが、刺激的です。
- ・素晴らしい環境の下、良き友との出会いもありRSSCで学べたことは一生の宝物となった。
- ・知らない世界をたくさん知ることができました。パソコンは知らな過ぎて苦労した。
- ・様々な分野に科目があるので、とても勉強になります。全学共通科目が取れることも大変良いです。

入学後変化した事

- ・生活にメリハリが出来た。学生気分になり若返った。
- ・知りたい、学びたいと思う事柄が増えました。
- ・興味ある分野の学びに集中することができた。環境の良い図書館を日常的に有効利用した。
- ・行動力が高まった。学ぶことが楽しめるようになった。
- ・人付き合いに積極的になった。
- ・本を以前より読むようになった。趣味が合う人を見つけた。
- ・生活に張りがでた。
- ・多少の専門知識が増えた。
- ・疑問が起きたらすぐ調べるようになった。今まで興味がなかった物にも興味がでた。
- ・学びなおしと同様の目的（これからの生き方、何をするか）の方と話す機会もあって、少しずつ先が見えてきました。
- ・今まで関心のなかったエリアでも興味を持つようになった。
- ・心身ともに若々しくなったこと。誰とでも交わることができる社交性・積極性が出てきたこと。
- ・同世代の仲間が増え、様々な意見を聞くことによってセカンドステージへの礎にもなった。

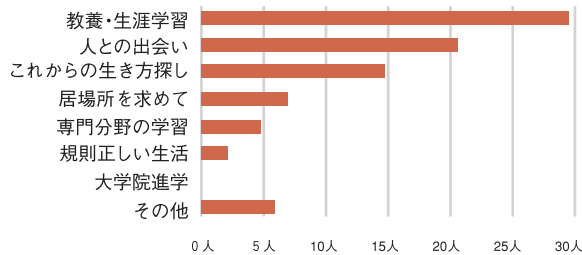
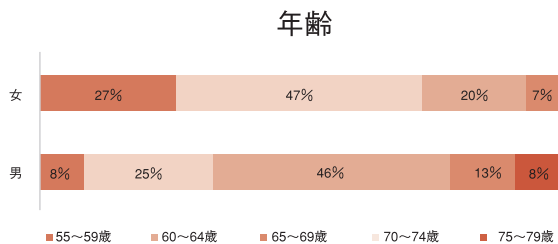
フリーコメント

- ・ゼミナールがとてもよかった。少人数のクラスと同じで、友達を作りやすい。論文作成も主体的な取り組みに加え、適度な緊張があり良かった。
- ・前向きに生きているたくさんの人と出会い、わたしも頑張ろう！と思います。
- ・ゼミの皆で活動することがとても楽しい。どこかに出かけたり、ゼミで話し合ったり。娘に「遅れてきた青春だね」と冷やかされています。
- ・規則正しい生活が送れ、充実した時間を過ごすことができました。
- ・論文作成など大変だが、会社員時代とは違う人のつながりが出来たように思う。
- ・ゼミを含め様々な機会を通じて、横のつながりの中でお話しできることに感謝しています。
- ・バックグラウンドの異なる人達と交流することで、前向きな刺激を受けている。これからのシニア人生を充実したものにしたいこうと、より広く深く考えるようになった。
- ・多様な人達との出会いは刺激となり自分を見つめ直す機会にもなっている。
- ・40年ぶりに大学に通い学問に触れたことは大きな喜びです。また若い学生と対話できたことも新鮮でした。これからも学び続けたいと思います。
- ・今ここを、セカンドステージのスタート地点だと思えるようになったこと。

専攻科生の素顔（入学者数47人）

11月アンケート実施
(40名回答)

専攻科へ進学した動機（複数回答）



本科生へのアドバイス

- ・何事もチャレンジだと思います。楽しむこと。興味があることにまっしぐら。
- ・この歳になって新しい友人ができるのは、大変貴重です。学生生活を楽しんで下さい。
- ・在学期間は思っていたよりも短い。一瞬を大切に過ごしてください。
- ・是非専攻科に進学して学びを続けてください。
- ・幅広い勉強ができ、人間関係も深まるので迷っているなら進学をお勧めします。

フリーコメント

- ・RSSCは、人との出会いにはとても良い場である。
- ・本科、専攻科で、いろいろな方々と交流ができたことは、今後の無形財産です。
- ・RSSCの2年間は本当に充実していました。入学してよかったと思います。

専攻科修了後の進路について

- ・NPO活動の比重を高めたい
- ・修論テーマをさらに研究し、実践していく
- ・大学に残りたいので、聴講生を考えている
- ・立教やその他の大学が提供する講座への参加を検討
- ・RSSCで知り合った同期の人たちと親睦ゴルフ会や懇親会を継続してやる
- ・学びと仲間づくりのできる場所を探しています
- ・2年間で溜め込んでしまった本を読みながら余生を過ごします

話題の受講生 あの人、この人

栗田ゼミ 山本 加世さん 妊娠・産後ママを'hug、
山本さんは2006年、'100の言葉よりhug、をモットーに、妊娠中から産後ママのメンタルヘルスをサポートする「NPO法人mama's hug」を設立、理事長でもある。mama's hugを運営するに伴い、コミュニケーションやコミュニティのあり方を学びたいと考えていたところ、ご主人からRSSCを紹介された。講義内容を見ると求めているものと一致したため入学を決意した。授業はコミュニティ形成などの授業を選択するとともに、心理学やSDGsなどの基礎を学んだ。



21年に小田原市から委託されたファミリーサポートセンター（育児を依頼する人と手伝いができる人とをマッチングさせる相互援助活動）を運営、23年7月にはRSSCで学んだことを生かし、子育てを支援する人が学ぶ場の「ファミリーサポート大学」を設立する。講師の一人にRSSCの授業で知り合った先生を招く予定。「小田原は人口が減少しているのでも呼ばれる含めて少しでも増やしたい」と地域貢献に取り組んでいくことに意欲的だ。

松山ゼミ 石田 進さん 研究者で会社経営も



ゼミ初日の顔合わせでいきなり論文を提出——そんなゼミ生を驚かせた通称「博士」と呼ばれるのが石田進さん。光応用通信学、口腔微生物学の研究者でありながら会社を数社経営し、日本に留まらず世界でも活躍している。春学期の授業では常に最前列で講義を受けることから「最前列の石田博士」とも呼ばれる異色の存在だ。勉学ばかりでなく、高校時代にはバンドを組みCDを出したこともある。

こんな異色の経歴を持った人がなぜRSSCに来たのか。「[より学びたいと考えていた時、新聞広告が目にとまりすぐに応募した]。3人のお子さんはすでに独立し現在ベトナムと3人暮らし。今後、さらなる勉学に励むため再び大学院に進学予定だという。さらなる高みを目指して学び続ける姿はRSSC生の鑑だ。

野田ゼミ 佐藤 靖子さん



「人との出会い、つなげる」を演出

主婦、家業、地域活動・ボランティア、学生など一人で何役もこなすフットワークの軽いアクティブな女性だ。芸術やスポーツに秀でる人は多いが、佐藤さんはRSSCの目的の一つでもある「人との出会い、つながり」をLINEなどで瞬時に演出する。RSSCでの出会いは一期一会。さまざまな異なった人生を歩んできたRSSC生の心を紡ぐ大切な存在だ。

住み慣れた地域（早稲田）をこよなく愛し、7年前から地域活動をライフワークとしてきた。その活動をより発展させるためコミュニティのあり方などを体系的に学びたいと考えRSSCに入学した。当初から授業で知り合った人と人々をLINEなどを使ってつなげて飲み会へ。その繰り返しでグループLINEなども数十になるようだ。常に先頭に立って行動する。「あ佐藤さん、やっちゃん、知っているよー」と今ではその名はRSSC生の中で知れ渡る。「同世代、同じ志を持った多くの人が集う場はあまりない。異なった背景の人とコミュニティを作ることによって自分の視野も広がる」とRSSCで出会った人から学ぶことも多いという。ジム通い、アルコールがエネルギーの源か。学校までは自転車で突き抜ける。

野田ゼミ 村本 吉弘さん

オンライン併用で新幹線通学



RSSCの大きな特徴はオンラインと対面の併用。特に地方の人にとってミックス型授業（コロナ禍特別対応）は、RSSC選択のインセンティブともなる。この特徴を活用しているのが村本吉弘さん。石川県小松市から週1回（ゼミ）の新幹線通学をしている。翌日仕事のためゼミ終了後にとんぼ返り。「（オンライン併用は）非常に便利。地方に門戸を広げるためにも併用を発展させてほしい」

60歳を前に自身の今後を考えたとき、前職の社長から『仕事オンリーの人生は送るな』と言われたことを思い出し、その選択肢として「学び直し」が浮かんだという。これがRSSCに入った一つのきっかけだ。その気持ちを奥様に打ち明けたら「良いのでは」と即答で受け入れてくれた。通学には奥様の多少の抵抗があったようだが、「修論の構想を練ったり考える時間ができた。授業、人との出会いのすべてが最高...」と対面の良さを実感している。昨年8月の石川県を襲った台風で河川が氾濫し、腰まで水に浸りながらも授業から帰宅した。その姿勢を目の当たりにした奥様からRSSCに行くことを打診され、「ぜひ応援・サポートしたい」と誓った。

堀ゼミ 荻山 貴美子さん

ヨーガで救われた「心の傷」



ヨーガを学ぶ人が増え、そのヨーガを組織で支えて普及に努めているのが荻山貴美子さん。日本ヨーガ学会理事長でもある。愛情過多な両親の元で育ち、その苦痛から病院通い。高校生の時、主治医からヨーガを勧められた。苦痛から逃れるため家を離れて大学へ行き、そこで主治医のアドバイスを思い出してヨーガを始めた。その後ヨーガにのめり込み、組織の指導者にもなったが先輩のパワハラにあい、中止することも考えた。しかしヨーガの良さ相談相手でもあるご主人の励ましで継続した。

ご主人が2年前に他界し心の拠り所を亡くした時、荻山さんの潜在意識に染みついていた本の一節「生涯教育の学校を人生大学と申す」を思い出し、前向きになりRSSCに入った。「素晴らしい講義と仲間との出会いがあった」とストレスも解消され心地良さを満喫している。現在もヨーガ講師を続けているが、RSSCに入学し組織から少し離れることにより、自分を俯瞰できるようになったという。『ヨーガの四季』（日本ヨーガ学会発行）の発行人・編集人。

阿部ゼミ 橋爪 宗一郎さん

タイに移住、RSSCでの出会いが後押し



橋爪さんは歳の離れたタイ人の奥様と小学生のお子様と暮らす。今後タイに移住する予定。2007年に前妻をがんで亡くし、08年から13年までタイで勤務。その時にゴルフ場のキャディーをしていた奥様と出会い、12年に再婚した。現在、小学5年、3年生の2人のお子様がいる。RSSCに入ったきっかけは立花隆著『自分史の書き方』。そこで立花隆が立教大学と関わりのあることを知り、調べるうちRSSCに辿り着き、講義の充実度から入学を決断した。修論のテーマも「自分史」だ。

奥様の実家はタイ北部のウタイターニー。そこにご家族と暮らすためすでに家を建てている。23年春に移住する予定だったが、お子さんがまだ小学生のため先延ばしになるという。「様々な経験を積んだゼミの人達と出会って、会社人間だった自分の視野が広がった」。今後も仕事と学びを両立させる予定。国際結婚、そして移住。RSSCでの出会いがタイ移住を決断させたひとつにもなると話している。

本科ゼミナール紹介

阿部ゼミ



＜阿部先生＞昨年度のゼミ生同様、湧き上がる知的好奇心を糧に日々の学びを深め、自主ゼミなどを通じて第2の青春時代を心から謳歌しています。特に異世代共学をゼミを通じて実践するなどチャレンジ精神にあふれています。修了論文では阿部ゼミのモットーである本当に書きたいテーマを追求しており、その仕上がりがとても楽しみです。

＜受講生より＞SDGsが専門の阿部先生にご指導いただく、我が阿部ゼミは、様々な経歴を持つ12名の、まさに多様性の宝庫です。みんな戸惑いながらのスタートでしたが、先生のほんわかしたムードのお陰なのか、あっという間にバリアが溶解し、結束は強まる一方です。多様性というのは大事なキーワードです。本ゼミでは、修了論文のみんなのバラバラなテーマについて意見を交換し合います。自主ゼミでは、今までの人生で得てきたかけがえのない何か、歌、本、映画、演劇、街、自然などについて語り合いました。みんな、自分を大切にしながら、お互いを認め合い、励ましあって、多様性を楽しんでいます。そして、いつまでも絶えることなく続くでしょう。

上田信ゼミ

＜上田 信先生＞今年度のゼミナールはコロナ禍の制限も解除され、毎回、熱のこもった雰囲気が進んでいます。銭湯、手妻（日本伝統の手品）や能、鎌倉散策など、さまざまな学外の情報が提示され、視野はキャンパスを越えて広がっています。一人のテーマを皆で学び合い、他のメンバーからアドバイスを受けるという、好循環が生まれています。



＜受講生より＞ 修論のテーマ探しは、”自分探し”。「せっかくRSSCで学んでいるので、興味のある事をじっくり探しましょう」という上田信先生の方針のもと、元消防士は地元活性化のヒントを得るために全国を行脚し、70代現職会社員はセンチナリアンとなる方法を調査し、元物流マンは銭湯に入って日本文化を次世代に残す方法を思い巡らし、伴侶の転勤に寄り添ったケアラーは老いの中に宝物を見出そうとしています。自主ゼミも、ワイン講習会（もちろん試飲しながら）、能楽体験、湘南・鎌倉散策と盛りだくさん。そして、LINEやゼミの時間に「こんな記事みつけた」とか「こんな面白い話聞いた」と情報交換。よく学び、よく遊び、よく助け合うゼミです。

大野ゼミ



＜大野先生＞大野ゼミは、様々な専門領域に関心を持つ受講生のゼミナールです。それぞれが、自分の好奇心によって決めた社会問題、教育問題、心理、料理、スポーツなどをテーマに修了論文研究に取り組んでいます。授業では、それぞれの発表に刺激を受けお互いの討論も活発です。自主ゼミも課外活動も活発な楽しいゼミです。

＜受講生より＞【テーマ：幸せを感じるとき】大野先生特別講演後の宴、ゼミ外生含む恋愛

♥討議の笑顔（井上） 下り特急に乗り車窓の通勤族を眺めて缶ビールを開ける時（柏木）

旅に出て、日常と違う街の空気を体感する時（木村） 近所のお蕎麦屋さんでまったり呑む時（酒井） 私の手料理で、家族が微笑むその瞬間（田口） 雑事から逃れ美味しいケーキとコーヒーで寛ぐひととき（野呂瀬） 桜花爛漫向立教、到学問世界航海、体会了「天人合一」（古田） ビューティフルサンデー、365歩のマーチ、泳げタイヤキ君（前田） あらゆる面において、刺激を受け学びに繋がった時♪（宮本） リポート提出で、思わぬ時にふとアイデアが浮かんだ時（山崎）

栗田ゼミ

＜栗田先生＞「きょううまく行くだらうバイアス」を発揮して元気に道を究め、跳んでいきましょう。

＜受講生より＞声を掛け合い励まし合って、みんなで赤ペンチェックの壁を乗り越えます！（槇島） いつものまにか、また会いたくなって、キャンパスで会うと嬉しくなる仲間ができました。（山本） 異なったキャリアを持つメンバーがゼミの中で其々の役割を見出し、1つのチームになっていく。この過程が楽しいです。（猪俣） 様々な出会いと会話は、毎日の刺激です。そんな事を感じさせてくれる楽しいゼミです。（高山） 学ぶとは問いかけること。ここで掴んだものがいつか人の役に立つことを願っています。（斎藤） 個性豊かな面々がワイワイ、ガヤガヤしている間に、新しい仲間や自分を見つける事が出るゼミ。（有賀） 何を捜しに来たの？ 様々な角度から見る事が出来ます？ 光は見えましたか？ 新たな道は見つかった？（松本） やったことのない事、やりたくなかった事、出来なかった事に取り組んでいます。（石坂） ゼミのイメージカラーは、緑 黄色 黒 青 です。（藤井） 「物静か」かな。しかし、みんな内に熱いものを秘めている、と言う所でしょうか。個性がひたひたと押してくるゼミです。（花岡） 東京でのキャンパスライフを半世紀の時を超え、味わいに来ました。ゼミでの仲間との出会いも素敵です。（山村）



佐々木ゼミ



＜佐々木先生＞私のゼミは「一人の論文はゼミの仲間全員で作成する」という方針で運営しています。私の役目は皆さんの作業の参考として、テーマ設定、論文構成、文章作成のヒントを差し上げることと心得ています。今年も真剣な討議が行われています。自主ゼミでも論文彫琢作業が和やかに行われているようです。

＜受講生より＞行動力と知性に溢れた個性派集団、それが佐々木ゼミです。様々な業界で、華麗なる活躍をされた男性7名と女性4名で構成されたこの集団を束ねるのは、頭脳明晰で心優しき哲学者の佐々木先生です。ゼミでは毎回、各人の論文テーマに沿って熱い議論

が交わされ、論文作成に全力で取り組んでいます。その後の懇親会では、一転して熱く人生を語り合い、カラオケ店へとなだれ込む（笑）、そんな素晴らしい仲間達です。夏休み期間中も、4回オンライン自主ゼミを行い、映画や音楽、家族、人生、将来について語り合いました。その他、6大学野球観戦、俳句の会の開催、箱根駅伝応援、卒業旅行の企画と、佐々木ゼミは終わりのなき変化を遂げていきます。

野田ゼミ

＜野田先生＞たまにZoomを併用しつつも、概ね一堂に会することができ、春学期のうちにお互いを愛称で呼び合うような仲間意識も生まれた。

入学以前には想像もしなかった新しい仲間と人間関係。未知が既知に変わった。それも大人同士の節度と思い遣りに満ちた関係。茨木のり子の詩「学校 あの不思議な場所」が語ってやまないあの「小さな森」

＜受講生より＞4月の初回ゼミ終了直後にLINE交換。緊張感も解け飲み会へ。新たな景色に出会った瞬間です。その後も毎週飲み会、より親密度も増しました。野田ゼミは多士済々の男性7名、セカンドステージ満喫時の女性5名の12名です。他ゼミとの交流、春秋の六大学野球観戦、野田先生を交えての江の島観光など『本当に仲いいね！』と度々言われることも。修論はゼミ初日に「テーマを考えて、でっち上げでもいい」ゼミ生一同？？その後「メモでもいいから書くこと」と不安派、どうにかなる派とも書き始め、適確で丁寧な指導のもと、秋には80%論文をほぼ全員完成させました。修論の道筋をつけていただいた野田先生、ありがとうございました。そしてゼミ生からWe hope to meet friends of RSSC `again, someday!



平賀ゼミ



＜平賀先生＞コロナ禍は生涯教育に対しても多大な影響を及ぼしています。今年は、対面とオンラインの長所をそれぞれ活かしながら、いつ終わりを告げるかわからないコロナ禍に挑んでいます。しかし、この体験は時差さえ各自が克服できれば、世界中どこでも場所を選ばずRSSCに通えるということを示しており、すごいことだと実感しています。

＜受講生より＞「過去は語らず、未来を語る」これが平賀ゼミのモットーです。ゼミ生は、一人一人が個性豊かなメンバーで、言語学者の平賀正子先生のもとで、互いに支え励ましあいながら絆を深めています。修論については、平賀先生から温かいきめ細やかな指導を頂いています。自主ゼミでは春早々に六大学野球に駆けつけ、パイプオルガンコンサートでは重厚な調べに芸術を堪能。

トキワ荘・小池さんのラーメンに昭和を感じ、雑司が谷七福神を巡って日々感謝。秋は川越散策に出掛けるなど、フィールドワークがメインの活動となり、知的好奇心を満たしています。その後の飲み会で、更に絆が深まることは言うまでもありません。

堀ゼミ

＜堀先生＞堀ゼミは今年が初年度。手探りながら、まずは論文の作成や調査、研究を楽しんでもらえるよう務めました。その甲斐あって…

と言いたところですが、むしろメンバーの優秀さのおかげで、ゼミはいつも知的刺激に満ちた有意義な時間になりました。機知に富んだ発表で全員大笑いしたことも。一番楽しんだのは私かもしれません。

＜受講生より＞ジェントルマン教授、堀先生率いる堀ゼミ11名は、先生同様、奥ゆかしい紳士・淑女ばかり(?)。謙虚な方ばかりでいつも和やか。でももう少し強い自己アピールを、と自分のキャッチフレーズを五七五調でお願いしました！まだ控えめですが…。さて誰がどれ？★バイリンガルや 日本語の他に 関西弁 ★立教は 居心地良すぎて 専科かな ★自然体 のらりくらりと 浮浪雲 ★いつからか ついたあだ名は 牛若丸 ひらりとかわす 仕事人 ★自分はね 本とお菓子が大好きさ ★皆勤賞 また新たな 始業式 ★いつまでも 青春時代の Challenger ★おとぼけで 可愛いところも あるんだよ ★修論は ゼミでの発言 いかしてる ★二胡弾けば 夫素早く 別室へ ★ここ(立教)に来て 仲間の刺激に トランジションNow!



松山ゼミ



＜松山先生＞RSSCに入学しなかったら出会うことのなかった12名にとって不安と緊張の中でスタートしたゼミだったが、すぐに〇〇ちゃんやニックネームで呼びあう間柄に打ち解けた。ひとり一人の修了論文をゼミ生全員でより良いものに仕上げるために、多様な経験と知識に裏打ちされた建設的な意見が自由に飛び交う場と時間を大切にしている。

＜受講生より＞「偶然か、運命の出会いか、松山ゼミOneTeam」ほぼ毎週ゼミに来てくださる松山先生の、紳士的で情のある指導の下12人のゼミ生全員楽しく過ごしている。出会いは次のステージへの原動力になるはず！ 晴耕雨読と腹囲減少が夢(サク) 登山を学んで山ガールになる

(みか) イカれたジジイになるぞ(ウルセー) Be a Giver. (博士) 夢 マチュピチュでオカリナ吹く(ナオ) 腹八分目、元気イッパイ！(ヨッシ) 新しい扉が開かれた場所(中) 先生と友の顔に心なごむ(たえこ) もう一度社会に出て働きたい(くみ) 仲間が出来て論文書けた(あきら) 学び・出会いが刺激的(雪国さぶ) 一生世話役やってます(ガキ)

専攻科ゼミナール紹介

上田恵介ゼミ



＜上田恵介先生＞私はゼミの場合は論文執筆に真摯に向かい合う場だと思っていますが、それ以上に、ゼミの時間だけに限らず、生き方や人生のことを、教員と受講生の垣根を超えて、堅苦しくなく語り合う場は大切だと思っています。というわけで、ゼミ終了後の二次会も活発で、私も2回に1回は参加しています。和気あいあいとした楽しいゼミです。

＜受講生より＞【テーマ：上田恵介ゼミの思い出】

文武両道 甘辛両党 上田ゼミ(門脇) 天空にあるがままに伸び伸びと(小島)

春に会い皆優しくてありがとう(久保山) 皆さんと過ごした優しく豊かな時間(野口)工場見学、体育大会等修論以外も充実(河村) 明るく知的であったかい、居心地満点ゼミ(毛塚) よく学びよく遊ぶ?笑顔満点みな最高(松田) 刺激いっぱい、興味のスイッチいつもON!(渡邊) 上田ゼミ、このご縁を大切にいつまでも(家城) 素敵な時間!先生と仲間に感謝。6限担当係(石塚) フラットな関係! 個性際立つ仲間!(風間) 知らなかった発見の連続、未知との遭遇!?(澤田)

黒木ゼミ

＜黒木先生＞黒木ゼミは、自由闊達に意見を述べ合い、お互い助け合いながら論文を仕上げていくことを旨としています。吾、唯、知るをもって足れり、という禅の言葉がありますが、私は、自己満足に陥らず、論文の読み手に訴えかけ、うならせる内容を目指してほしいと願っています。



＜受講生より＞【テーマ：来年度頑張りたいこと】

毎日の太極拳と低速野菜ジュースで健康づくり(MS) / 地域防災活動で社会貢献を本格的にスタート(KY) / 屋上菜園の野菜作り3年目。新しい野菜に挑戦!(YA) / 学び、趣味、健康、その他真摯に取り組む(TK) / 立教で得た学びの姿勢を大切にする。地域に根をはる。(KK) / 新しい事にチャレンジする(YY) / 英語の勉強、新しい根拠を探しに行くために(HK) / 仕事をバリバリ頑張る!あとはピアノと家の掃除かな(CT) / よく学び、よく歩き、よく食べ、明るく笑顔で生きる(TM) / 妻の趣味(クラフトバンド)の全面サポート(MS) / 2年勉強、1年休息。たまった仕事を片付ける。(JS)

渡辺ゼミ



＜渡辺先生＞このゼミは、例年に劣らず、多士済々。一人ひとりの発表や発言に、それぞれの人生の重みを感じます。今回の「ゼミ紹介」は、皆、五七五で参加するとのことですので、教員の方も、それに倣って三句、あげます。

『ディベートを 手探り試す 花曇り』『夏すぎて 丁々発止に 息を飲む』

『白紙(しらかみ)に 修論打ち込む 冬けらし』

＜受講生より＞【渡辺ゼミは川柳で攻めます!】

「ディベートの おもしろさ知る しんじゼミ」(大場)「初めての ビブリオバトル 懸命に」(森)「修論を 完成夢見て 今日寝る」(荒井)「今ぞ知る 学ぶよろこび ここにあり」(茂木)「ギャツビー ディベート 大谷崎」(オータニ)「女子力の パワーもらって 元気づく」(れいこ)「額寄せ ディベート 作戦 あと10秒」(kimi)「あとわずか ゼミ後のグラス 何杯目?」(梨子本)「過ぎ去れば ディベートの日々 懐かし」(鈴木恵)「講義ふけ 作戦会議 熱い木陰」(TH)「レッスン1 質問作りは すべてに通ず!」(鈴木洋)「古希になる 古来稀なの 高齢化」(杉田)

高橋ゼミ

＜高橋先生＞専攻科に相応しい修了論文を目指して奮闘中です。個人的な感想や思いを綴る私的な作文と違って、論文は公共的文書で、当該テーマに関心をもつ不特定多数が読者です。だから、公共的文書に必要なルールや形式が沢山あります。それを覚えて使いこなし、本科のときにも増して公共性ある論文にしようと、みんな頑張っています。



＜受講生より＞「先生がだす哲学的難題を一致団結して解決する高橋ゼミ。」(Y.I.)「和気あいあいと、ニックネームで呼ぶ会うゼミ」(K.O.)「先生の指導はアメとムチ。アメが2割でムチが8割?」(O.H.)「厳しいご指導のせいでゼミ後の反省会実施率ほぼ100%」(K.N.)「みんな知ってる。先生の厳しさはあふれる愛の裏返し。」(H.M.)「ソクラテスのような厳しい質問に鍛えられる高橋ゼミ」(M.K.)「リベラルアーツ&自由の学府、立教スピリットの象徴、高橋ゼミ」(M.K.)「それぞれの個性を認め合う。こころ優しい高橋ゼミ♥」(M.S.)「明るく、楽しく、元気よく。誉めよ、称えよ、高橋ゼミ!!」(K.K.)「哲学で学ぶ新たな人生の扉 we feel it's nice over 50」(E.Y.)「厳しい添削修了論文、なにゆえ場が和むのか、高橋ゼミ」(E.O.)

イベント紹介

本科、専攻科合同で実施された各種イベントを紹介します。
新たな学びの場として、そして受講生相互の親睦を深める場になっています。

■ 2022年度 入学式

4月2日(土)、立教セカンドステージ大学の入学式が立教学院諸聖徒礼拝堂(チャペル)にて執り行われました。今年度は本科生103名、専攻科生47名、計150名が新しくセカンドステージ大学の門をくぐりました。感染予防対策のため、チャペルと同時中継会場に分かれて参加しました。入学式は、チャプレンの序祷に続き、RSSC西原学長から訓示をいただきました。パイプオルガンの音色がチャペルに流れる荘厳な雰囲気の中で、これから共に学ぶ仲間たちとの新しい第一歩を歩き始めました。



■ 立教セカンドステージ大学ウエルカムパーティ

4月15日(金)、オンラインでウエルカムパーティが開催され、受講生・教職員約140名が参加しました。司会進行は専攻科生2名がつとめ、本科生を迎えました。浜崎RSSC副学長から歓迎の挨拶をいただき、その後乾杯の発声と続き、新しくRSSCに来られた先生からの自己紹介なども行われました。その後、各ゼミに分かれて歓談しました。

■ 同窓会オータムフェスタ

10月16日(日)に今回で第60回目の節目を迎えた立教大学校友会ホームカミングデーが池袋キャンパスで行われ、RSSC同窓会も「RSSC同窓会オータムフェスタ」として同時開催しました。当日は快晴でキッチンカーも出店し、まるで縁日やお祭りのようで多くの人で賑わいました。そんな中、同窓会ではX103教室で10時30分より修了論文発表会と同好会・研究会発表、そしてM201教室で14時から大野久先生による「シニアを心豊かに生きるには」と題した特別講演が行われました。当日のオンライン配信に加えて後日アーカイブ視聴配信も行われ多くのRSSC生が楽しみました。いずれの教室も満員御礼で大盛況のうちに終了しました。今から次年度のホームカミングデーが楽しみです。

尚、9月に本科、専攻科それぞれで予定されていたゼミ合同合宿は、コロナ感染状況をふまえ中止となりました。

これから修了までに行われる行事を一部紹介します

※内容は2021年度のものです

■ 修了論文発表会

2022年3月10(木)、11日(金)の二日間、2021年度修了論文発表会が開催されました。マキムホール(15号館)大教室で本科と専攻科からの合計25名が、各20分の持ち時間で自身の修了論文を発表しました。今回、新型コロナウイルス感染状況により、受講生は対面、またはZoomでの参加でした。発表されたテーマは、ライフ、SDGs、生活、歴史、文化、経済、社会、哲学、信仰、文学という広範囲に亘りました。各発表後には、発表者への質問や意見があり、発表内容を深堀りできました。発表会後の受講生からアンケートの回答では、新たな学びの場として有益であった、他のゼミ生の修了論文内容を理解できた、あるいは他のゼミの受講生との交流にも役立った等、多くの意見が寄せられました。



■ 修了式・修了を祝う会

2022年3月23日(水)に2021年度専攻科生と本科生の修了式がチャペルと8101教室(同時中継による)で厳かに執り行われました。そして、8101教室における修了証書授与式では、副学長のご挨拶、ゼミ担当の先生方のご挨拶、ゼミ毎の記念写真撮影がありました。その後、修了パーティ委員会の企画・運営の「修了を祝う会」が催されました。





学びの魅力～授業およびゼミの活動を紹介します～

☆セカンドステージ大学科目をいくつか紹介します！

○食と健康の教養学 松山伸一先生 食品の焦げ、農薬、青汁、シニアの食事など私の今迄の常識が根本から覆され、科学的根拠を基に軌道修正することになった講義です。老後を迎えるにあたり、大人も粉ミルク、簡単スクワット、毎食タンパク質がどれだけ役立つことか。授業資料は先生自ら印刷し、生徒の質問には真摯に答え、回答は次の授業資料に添付してくださり、教育者としてのプロフェッショナルな姿勢に静かな感動すら覚えました。先生の授業資料は老後の大切なお守りです。(本科 田口)



○最後まで自分らしく 小谷みどり先生 長寿社会に浸りきっている我々に、人生の終末期に当たる諸問題を医学的・哲学的・文化的側面から先生の現場での取材、写真、体験談を交えて極めて具体的に、複眼的に訴えかける授業です。今日、タブー視されている「死」についてさりとて我々の心にぐさりとくる話をされるとてもパワフルな先生でもあります。テーマによっては、実際の現場で活躍されているその道の権威を招いての授業もあります。本で読む知識と一味も二味も違う現場での話を聞く機会もあります。小谷先生の講義は、つい時間を忘れ、聞き入ってしまう、楽しく、魅力的な授業です。(本科 山崎)



○原風景とジオラマで自分史をつくる 野中健一先生(夏期集中講義) ジオラマ未体験の受講生が、昔の心に残る風景を思い出し、ジオラマという材料を用いて表現、その風景の中をなんと電車が走ります！そんな夢のような楽しい実践講義を、文化環境学が専門の野中先生がご指導してくださいました。始まる日までオリエンテーションでイメージを膨らませ、真夏の3日間朝から晩まで超集中。そうして作り上げた一人一人の個性あふれるジオラマ作品は、個人にとってかけがえのないものに。全員、瞳は子供のようでした。新しい世界の扉を開いてくださった先生に感謝です。(本科 滝沢)



【全学共通科目※の魅力について】 RSSCの魅力の一つが「今」の大学生の授業を学部生と同席して受講する「全学共通科目」だ。私は科目選択にテーマを持ち、本科春学期では社会の基本を学ぼうと憲法と経済、秋学期は私が興味のある分野として建築と主権者教育、専攻科では立教の強みであるメディア系著名人や立教出身の経営者から話を聞く授業を履修した。最初に教室で行われた試験では学部生に囲まれ、鉛筆を持ったときには感動した。書き始めると漢字が出てこず、焦りもした。「主権者教育」の講義では最後に高校生に授業を行うため、学部生6人とグループになり半年間活動を共にして交流が図れた。また、池上彰、古舘伊知郎、豊田順子、宇賀なつみ…テレビで観た顔の講師陣と会話するチャンスもあった。全学共通科目の魅力は尽きない。(専攻科 門脇)

※一定の条件の下で、学部学生のための科目を受講できます。

ゼミナール

ゼミの授業と修了論文 RSSCのカリキュラムで得るものは多いですが、その中でもゼミでの学びと修了論文の作成は記録にも記憶にも残ります。さらにゼミで得られる大きい収穫は新しい仲間が生まれることにあります。様々な経験をしてきた人々が学生として集い、ゼミで喧々諤々議論し合い、修了論文という新たなものを生み出せるのです。ゼミでは先生によって指導方法も違いますが、どれもこれも振り返ればいい思い出になるはずです。ゼミでの経験と繋がりはRSSCを修了しても私たちににとってかけがえのないものであると思います。



自主ゼミでの学び 各ゼミにてゼミ生が自主的に行う「自主ゼミ」では、知的なものからアクティブなものまで幅広い活動を行っています。授業時間に教室を利用した発表会、街に繰り出す、休日なども使って様々な経験をする、など授業の枠を超えて活動しているゼミも多いのです。以下にいくつか実例を紹介します。こうした活動がゼミの結束を固くし、楽しいものになっていることは間違いないでしょう！

学内活動	・立教のチャペルを訪問しチャプレンの講話聴講 ・「推し映画はこれだ！」各自の推し映画をプレゼン発表 ・立教学院展示館、江戸川乱歩邸にて解説付き見学
学外活動	・イスラム教と仏教を事前学習後、有志で寺院訪問 ・東京芸術劇場、水族館・プラネタリウムでの鑑賞 ・六大学野球観戦、ボーリング・卓球大会、池袋の散歩



合宿、修了論文発表会など、各行事の企画・運営を行う5つの委員会があり、各ゼミから選出された委員が活動しています。その中から、オンライン委員会の様子を、委員のウィックスかおりさんに紹介していただきます。

オンライン活動委員会は、対面とは異なった環境でセカンドステージの受講生達が交流を深める場の「橋渡し」役の委員会です。活動で一番大変だったのはZoomホスト、人生で初経験！でした。

え？ホスト？何？私にできる？という不安な状況から委員会はスタート。6月には、オンライン談話室プレオープンの初ホスト役を経験し当日は朝から緊張気味。問題も多少ありましたが無事にホスト終了（安堵）。ホストとしての達成感と楽しさ、運営の自信を味わうことが出来ました。

プレオープン後のアンケート結果は、談話室参加者の平均は11名、参加した評価を5段階で表すと平均3.95、今後も開催した方が良いかの回答は本科51%専攻科57%と半分以上の結果となりオンライン談話室の継続や参考につながりました。

談話室のテーマは、談話室開催のホスト自身がテーマを決めて開催します。委員会メンバーそれぞれ、参加者を思いながら必死にテーマを考えました。修論・履修、秘湯、スポーツ、音楽、ペット、映画、旅行などバラエティー豊富な活動を開催中です。

Zoomでの会議やZoomホストを重ねているうちに対面と同じ、いやそれ以上に不思議な安心感のあるオンライン委員同士の交流が築かれ、お互い助け合いながら本科専攻科の壁がない交流が自然とされている事に感動しました。まさに、オンライン活動委員会の目的を自分達が実践、実行している素晴らしい委員会です。

メンバーの生の声です

①オンライン委員会に参加してよかった事。

- ・Zoomのホストができるようになった事。（これはデカイ〜）
- ・本科と専攻科の委員が一緒になって談話室の企画をまとめ上げる活動ができています。
- ・リアル飲み会とは違った結びつきもできるように感じました。

②運営での苦労話

- ・談話室のスケジュールをゼミ生に展開しているが、RSSC面々は忘れやすいので、談話室開催の前日もしくは当日、談話室開催通知をLINEでリマインドする。
- ・苦労したことは不思議なくらい全く無い、ですね。
- ・どんなテーマだと参加してもらえるのかなどテーマの選定や談話室の進行、運営面について毎回、頭を悩ませています。
- ・参加者に喜んでもらえるテーマを考えるのが大変だった。

③談話室でのエピソード

- ・ホストが参加せず、談話室への入室・開催遅延、急遽、仮ホストへの切り替えをして開始できたこと。
- ・初めて参加の方からギターの弾き語りの生演奏を披露していただきました。
- ・参加者よりホストの人数の方が多い回があった。



Zoomでハロウィン！スクリーンの中の嵐！！

同窓生の多彩な活動

RSSCの同窓生の同好会・研究会活動をご紹介します。

Second StageのThird Place

ザ・サードプレイス

代表の坂川克己さんにお話を伺いました。14期生のオンライン合宿のフリートークでの音楽談義がきっかけで結成されました。14期生を中心に、13期、15期の8名が参加しています。こういう同好会が今までなかったのが不思議なくらい。レパートリーは、RSSCの年代らしく、70年代～80年代の洋楽が中心です。月2回の合同練習と絶え間ない自主練により腕を磨いています。

メンバーはピアノの先生のようなプロもいますし、ジャンルもジャズ、ロックといろいろです。みんな好みはまちまちですが、「合わせる」ことが大事だし、楽しみです。人数は増えてきていますが、それだけ、曲やレパートリーが広がるので、新規メンバーは大歓迎。交代でやれて楽なものもメリットです。なかなかローリング・ストーンズのようにいきません。サードプレイスとは、家庭とも職場（学校）とも違う第3の居場所というイメージ。皆さんの中で眠っている、または、封印している音楽魂を、大いにリスキリング、リカレントしましょう。特に、ベースとエレキギターは重点的に募集中です。なお、2023年3月にコンサートを予定していて練習中です。プログラムは懐かしのJ・POPが中心です。お楽しみに！



はなれてつながろう RSSCあどらーカフェ



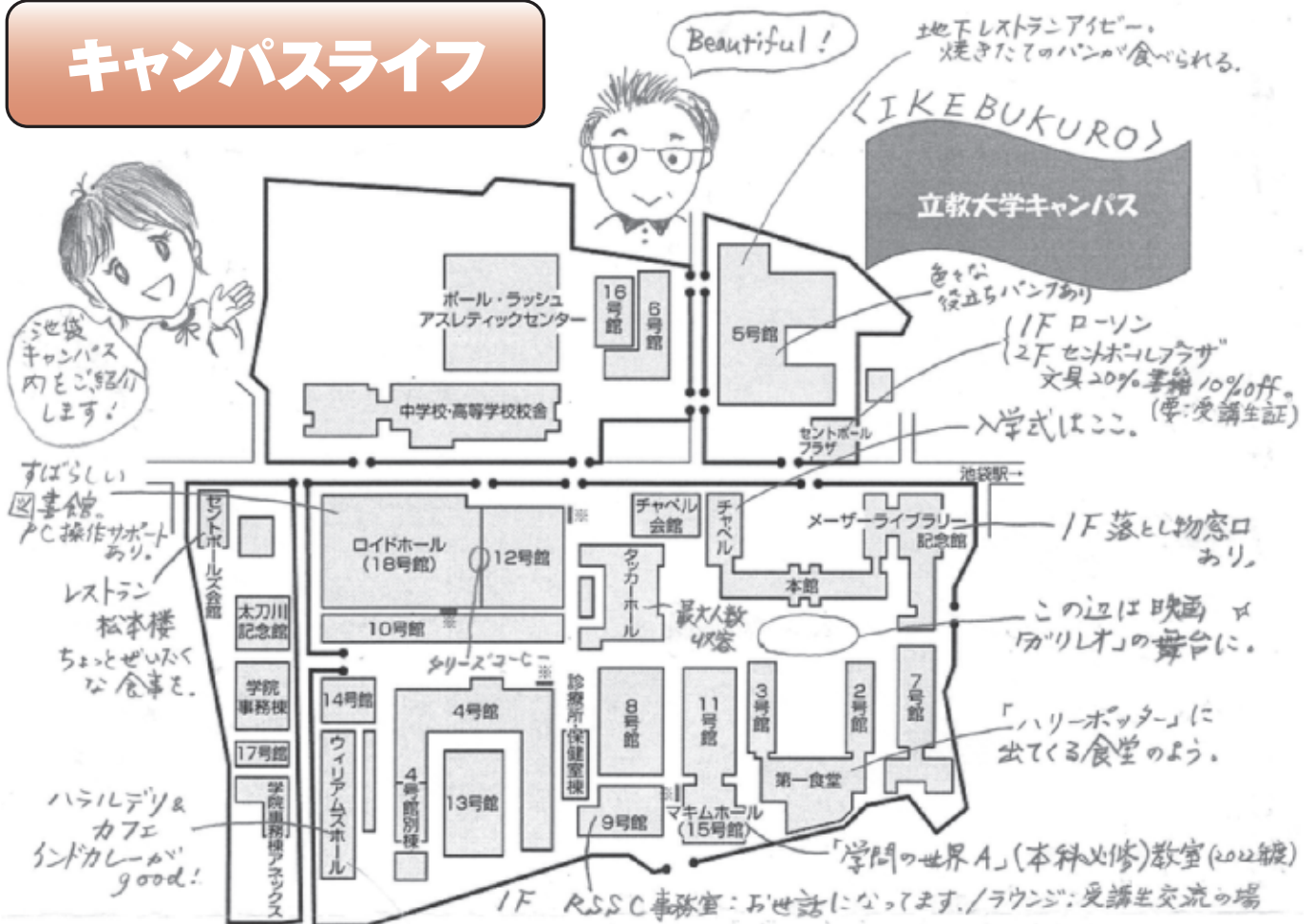
RSSCの授業で箕口雅博先生の「アドラー心理学」を学んだ受講生を中心に「授業だけでは物足りない！」との声に、先生が応える形で2019年3月から勉強会として活動が始まりました。会の名称はアドラーがウィーンのカフェで仲間と話す時間を大切にしていたことに由来しています。

活動は3ヶ月に1回、箕口先生の講義で学んだ後、参加者でワークショップ、その後は皆で共有します。コロナ禍になってからはZoomによるオンラインとなりましたが、以前は勉強会後に食事会を行うこともあったようです。

トライアルとして実施した今回の茶話会では、参加者が持ち時間5分で自分の想いを語るのですが、参加者は皆楽しそうに聞いているとワクワクしてきます。会員はアクティブに活動している方が多く、ボランティア等の苦勞で心が折れそうになってもこちらで勇気づけられて続けられたといひます。逆にこちらで活動を始める勇気をもったという声もありました。ちなみに「勇気づけ」はアドラー心理学の重要なワードだとのこと。みなさんそれぞれに実践されているそうです。

会員は約60名で、顧問は箕口先生、代表は8期青木美恵さん、12期五十嵐訓子さんです。

キャンパスライフ



立教周辺西口MAP



☆魅力あるキャンパスライフを紹介します☆

その1：九州からの学生がいるってホント？

ウワサ①その人は九州福岡から単身東京に来ている…

ウワサ②学生向けアパートに住んでいる…

ウワサ③薬剤師なので薬局でバイトをしている…

…みんなホントです！！！！

Mr.Yはスラっとした長身の男性。家族を故郷福岡に置いて、学生生活を楽しんでいます。そのY氏から一言。

「憧れの東京でのキャンパスライフ。古希を迎え、人生の節目として決断。歴史あるキャンパス、その中で若い学生らと学べる事が楽しいです。」



山村博久さん

その2：クリスマスツリーは、見逃せないもの！？

立教キャンパスといえば、二つの素晴らしい壮大なヒマラヤ杉。学生で構成される「クリスマス実行委員会」が12月に飾り付けを行います。点灯式は2022年11月25日に行われました。二つのクリスマスツリーの明かりの中、その間を通過して帰途につくとき、つい振り返ってツリーをまた見てしまうほどの美しさです。



立教大学に来てよかったなと思うことは多々ありますが、こういったキャンパスの美しさは、なかなか他大学で匹敵するものはないのでは？と感じますし、映画やドラマに使われるのもよくわかります。映画・ドラマの「ガリレオ」の大学シーンはこちらで撮られています。

その3：学部生との学びや交流ができるのも、RSSCだからこそ！

全学共通科目「立教ゼミナール」：異世代間対話（佐々木一也先生）

恋愛、仕事、家族等、毎週異なるテーマを学部生とRSSC生6名くらいのグループで自由にディスカッションするユニークな授業です。学部生と私たちとの考え方の世代差が出て学ぶことが互いに多くあります。



チャペル「昼の祈り」：学生は語る



パイプオルガンの厳かな調べの中、参列者が静かに席に着く。毎週木曜の昼の祈りは学生が登壇し自身の経験を語ります。

この日登壇したK君は、仲間を思いやることの大切さや努力することの尊さを話してくれました。純粋な学生の言葉を聴き、心が洗われるような思いがしました。

「阿部ゼミの自主ゼミ企画」：学部生と交流しよう

SDGs授業を通じて知り合った学部生7人を招き、6月30日阿部ゼミ生12人と交流を行いました。

自己紹介、質疑応答、SDGs議論で大いに盛り上がりしました。学部生もRSSC志望動機を聞き新鮮な驚きを感じてくれたようです。



東京六大学野球観戦記！！

♪見よや十字の旗かざす〜♪ 神宮の森にこだまする立教第一応援歌。去る10月15日、ニューズレター委員他有志16名は立教野球部応援のため神宮球場に集合しました（対早大戦）。試合は1対1の大接戦。7回裏1点勝ち越し、尚もチャンスが続く。絶え間なく続く応援団長の突き、チアリーダーたちの乱舞。その時、ファールフライが太鼓を叩く応援団員を直撃！大丈夫か？しかし、痛がる素振りも見せず太鼓を乱打し続ける団員に観客席から大きな拍手が湧きました。延長戦のすえ惜敗となったものの、選手と応援団の必死のプレーに大いなる感動を覚えました。試合後夕空にこだまする校歌『栄光の立教』。自らの青春時代を思い浮かべながら、若き立教健児たちへ心の中でエールを送ったのでした。



立教大、55年ぶり箱根駅伝出場!!

55年ぶりに箱根路でつないだ「江戸紫」の襷。2018年に招聘された「日本一速い監督」の上野裕一郎氏のもと着実に力をつけてきた立教男子駅伝チーム。2023年正月、1968年以来となる大会史上最長の振り返りで箱根駅伝に出場しました。大舞台でも選手たちは力走を続け、襷をつなぎきりました。冬休み明けの教室では、RSSC生の間でも選手の頑張りをたたえ、これからに期待する話題で持ち切りでした。

【体育会陸上競技部男子駅伝チーム 林英明コーチのメッセージ】

1月2日、3日の箱根駅伝では、お正月にも関わらず皆様からの厚いご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。結果は総合18位、襷も途切れることなく大手町のゴールまで運ぶことができました。一方で10位以内のシード権獲得を目標としていましたので、課題も多いことが分かりました。ここからさらに成長して、来年の立教学院創立150周年記念の年に再びスタートラインに立ちたいと思います。また、沿道では大変多くの立教関係者の皆様から激励やお声かけをいただき、チームへの期待や大会の影響力の大きさを実感いたしました。これからも皆様から応援していただき、チャレンジする勇気を共感してもらえそうなチームになっていきたいと思います。



3区 力強い走り！関口純太さん



6区 快走する内田賢利さん



終了式での男子駅伝チーム

RSSC修了生の声

6期生 堀本恵子

それは、小雨降る寒い一日でした。ここ千川駅近くの私のサロンは、温かいご馳走と笑顔で溢れていました。6期生恒例の芋煮会でのことです。私たちはRSSCで出会いました。

あれから9年、歳月はその絆を一層深いものにしてれています。

6年前にオープンしたKATEサロンは、本科ゼミの私の研究テーマ「コミュニティーサロン計画」の成果です。近隣の小学校での「放課後学習支援」、社協と共催の「お年寄りのための“まちなかサロン”」運営などは、ここを拠点とした6期生の活動です。また、期を跨いでRSSCの幾つかのグループもここに集っています。その他「絵手紙教室」「ファッションクラス」なども開き、地域のコミュニティー活動の一端を担っています。今日まで繋がってこられた大きな要因は、修了後すぐにアクションを起こしたことによると確信しています。「人生青いままでいい、最後まで青いままで行こう」とは、建築家安藤忠雄のことばです。私も熟れずに青く行きます。

11期生 加藤則明

専攻科の時、「シニアの学び」についてNHKのインタビューを受けた。これが全国版のニュースで放送されたが、この時「シニアにとって必要なもの何ですか？」と聞かれた。即

答できなかった私が考えた結論は「情報、仲間、パワー」。それがRSSCには全てが揃っている、更に「厚み」もあるのだ。生き方の情報があり、友達もできる、パワーを生み出す刺激があり、そしてRSSC修了生との関係作りも可能。不思議な事に「私もRSSCに通っていた」と言われるとグッと身近に感じる。RSSCでは積極的に行動したわけではないが、飲み会は断らない、研究会等に誘われたら断らないと「断らない主義」を通した。その結果今でも学びを楽しみ、ゼミや研究会等を通してできた多くの友人と活動が続けている。RSSC入学前からは考えられない事だ。これがRSSCで学ぶことの素晴らしさであり、私にとって奇跡の場所だったと思う。皆さんも過去にこだわらず素直な気持ちで学び、数多くの友達を作って欲しいと思う。

編集後記

取材、編集に東奔西走。55年ぶりの駅伝出場最後までバタバタしましたが、受講生や先生、事務室のご協力で発行することができました。ありがとうございました。

編集委員：遣澤健一、新津 肇、野呂瀬加代、柏木 勉、山村博久、宇田 真、多田和彦、安倉史典、滝沢恵子、北島孝子、毛塚悟巳、熊谷 隆、小関栄一、梨子本 紘、荒井哲男

担当教員：阿部 治